様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月 １４ 日現在

機関番号：１６３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０４５５９

研究課題名（和文）リフレクションを用いた大学生のリーダーシップ養成に関する効果検証及び教材の開発

研究課題名（英文）Considering the Effectiveness of Reflection in Leadership Development in College Students and Sharing Research Results

研究代表者
村田　晋也（Murata, Shinya）

愛媛大学・教育・学生支援機構・講師

研究者番号：１０５８０４７５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、研究代表者・分担者らが大学間連携事業として実施している研修プログラムを調査対象とし、大学生のリーダーシップ開発・養成にリフレクションが及ぼす効果について検証を試みたものである。当該プログラムの参加学生及び観察者・学習支援者である教職員スタッフに対する調査を通して、リフレクションを用いた研修プログラムが学生の学びを生起していること及びリーダーシップに関連するスキル・マインドの成長を学生が実感すると共に、教職員らスタッフの関わりがそれに大きく影響している様子について調査することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
リーダーシップに関する知識・スキル・マインドを学生期に養成することに関する実社会からのリクエストを背景に、我が国でも多様な手法を用いたリーダーシップ・プログラムが実施されるようになってきたが、未だ開発途上のものや効果検証が十分とは言い難いものも少なくない。そこで本研究では、高等教育機関が実施する実践と経験から学ぶ研修プログラムを対象に、リフレクションを用いたリーダーシップ養成の効果について調査すると共に、得られた知見の公表・共有を通じて当該分野における取り組みの深化に資せんと試みたものである。

研究成果の概要（英文）：In this study, the principal investigator and co-investigators examined extracurricular programs for leadership development implemented as inter-university collaborative activities. Researchers considered the impact of reflection on the development and cultivation of leadership among college students. Through surveys from participating students and observations from the instructors who provided support for these programs, the study was able to investigate what students learned from these reflection-related leadership programs. This study reviewed students' sense of personal development of leadership-related skills and mindset, as well as the major effects of student interactions with instructors and other staff.

研究分野：経営学、教育学

キーワード：リーダーシップ　リフレクション　学生の能力開発

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1) 学生のリーダーシップ養成に対する実社会からのリクエスト：急速な勢いでグローバル化が進み、地域や国際社会で活躍する人材に求められる能力が多様化・高度化する現在、歴史・文化・習慣的背景の異なるメンバー間での効果的な協働を生み出し、組織目的の達成を促進する“リーダーシップ”の重要性は、営利・非営利を問わずどのような組織においても増す一方である。そのなかで学生たちがリーダーシップに関する知識・スキル・マインド等を大学在学中にある程度体得するよう求められていることは、「社会人基礎力」や「学士力」、「グローバル人材」等として纏められるスキルやマインドの一覧にそれらが包含されていることから明らかである。

(2) 申請者らが取り組むリーダーシップ養成プログラムについて：本研究の代表者・分担者らは、学生の汎用的な能力を養成することを目的とした取り組みの一つとして、平成 19 年度から今日まで「愛媛大学リーダーズ・スクール（以下 ELS と略記）」を開講している（文部科学省・平成 19 年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援 GP）」採択事業）。また、平成 24 年度からは、ELS における学生リーダーシップ養成の取り組みを学外へ敷衍し、上述の実社会からのリクエストを背景にさらなるフィールド開拓と正課外プログラムを構築することを目的とした「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム（以下 UNGL と略記）」を 20 校程の連携大学と協働して実施している（文部科学省・平成 24 年度「大学間連携共同教育推進事業」採択事業）。

(3) リフレクションの効果性に関する実証的研究の必要について：上述 2 事業（ELS／UNGL）では、学生のリーダーシップ養成を促す主な方法の一つとして、学生が自らの経験を整理し学びを得るためのリフレクションの場を必ず設けている。また、大学間連携事業（UNGL）では、効果的なリフレクションの機会を創出するためのノウハウを先達教職員の経験に基づいて共有してきた。その結果、学生たちのリーダーシップに関係する知識・スキル・マインド等が成長してきたことについては、これら 2 事業の現場で指導にあたる教職員が総じて観察し実感しているところであるが、実際にリフレクションの何がどのように学生のリーダーシップを養成せしめるのか、またどのタイミングでどのような働きかけが効果的であるのかについては、十分な調査研究を元に手法の標準化を図るまでには至っていないのが課題であった。

２．研究の目的

前述の背景・動機をもとに、本研究では、学生のリーダーシップ養成においてリフレクションが持つ効果性に関する考察と、それを支援する教職員スタッフに有用な知見やノウハウの収集・蓄積・共有を行い、今後の学生リーダーシップ養成の取り組みの一助となることを目的とした。

３．研究の方法

(a) UNGL が実施する学生研修プログラムにてアンケートや録音・録画等による記録を行い、リフレクションがリーダーシップの養成・伸長にどのように影響しているかを当事者（参加学生）ならびに観察者・支援者（教職員スタッフ）のそれぞれにアプローチして調査する。

(b) 調査の結果をもとにリーダーシップ養成とリフレクションとの相関について検討・考察する。

(c) 上述(a)・(b)の調査から得られた知見やこれまでプログラム実施の際に集取したデータを参考に、参加学生・教職員スタッフに対するヒアリングや記録の整理を行い、効果的なリフレクションを構成する要素の抽出を試みる。

(d) 調査結果の収集・分析の進捗について調査中及び調査後の学会報告を通じ、有識者との情報・意見交換を行い、さらに研究を進めていく上での示唆を得る。

(e) 上記までの調査とこれまでの活動を総合して、リフレクションを用いた大学生のリーダーシップを効果的に養成するノウハウを取り纏め共有を図る。

４．研究成果

① プレ調査による研究対象の絞り込み：研究初年度には先行研究のレビューや試験的なアンケートの実施等を含むプレ調査を行い、続く年度以降の本調査をどのように進めるかを研究チームにて検討した。UNGL では主に年間 5 つの学生研修を国内外で実施しているが、どのプログラムにおいても、参加学生が事前に設定した目標に基づき、それへの取り組みについて日毎に、(ア)個人で、(イ)ピアで、(ウ)観察者である教職員や学生スタッフと共に振り返る時間と場を設けることをその特徴としてきた。これらについて、本研究の開始前より数年間にわたり収集したデータを整理すると共に、プログラムへの参加学生数や関わる教職員の人数と、本研究による調査から得られるデータの質・量などを勘案した結果、2 年目からの本調査においては「学生リーダーズ・サマースクール」および「リーダーシップ・チャレンジ in サイパン」の 2 プログラムを主な調査対象とし、他プログラムから得られるデータについては付加的に扱うこととした。

② リフレクションに対する参加学生の捉え方に関する調査と回答内容の整理（本調査❶）：本調査では手始めとして、UNGL プログラムの参加学生らが研修期間中に自分たちの経験するリフレクションをどのように捉えているかについて確認することとした。結果として、当該プログラムに

カテゴリー	回答例
自己理解の変化・深化	自分の長所・短所に気づいた、客観的に自分を見ることができた、（自己の）改善の必要な点に気づいた等
他者との関わりの変化・深化	他者の強み・弱みに気づいた、アドバイスを伝えることができた、話し合いを通して相手を理解できた、目標を共有できた等
チームの課題・改善点の特定	（チームやグループとしての）改善点に気づいた、課題の存在に気づいた、チームで取り組む目標を設定できた等
新たな目標の設定	新たな自分の目標が見つかった、自分の目標を再設定できた、次の目標に取り組む動機付けを得た等
視野・思考の拡大	これまでと異なる視点を得た、新たな見方ができた、自分では気づかない点に気づかされた等

表 1：学生コメントの分類

参加した学生の約 8〜9 割はリフレクションが自分のリーダーシップ養成に与える影響について肯定的に捉えていることが明らかとなった。同調査では、この回答理由について自由記述式で問う質問項目も設け、得られたコメントについて研究チーム内での協議をもとに以下 5 つのカテゴリーを設定し、分類を試みた（表 1 参照）。この分類に沿って回答を整理した結果、参加学生がリフレクションから得たと主観的に自覚している学びの成果として、「自己理解の変化・深化」が多数を占め、次いで「他者との関わりの変化・深化」「視野・思考の拡大」「新たな目標の設定」と続く結果となった（図 1 参照）。

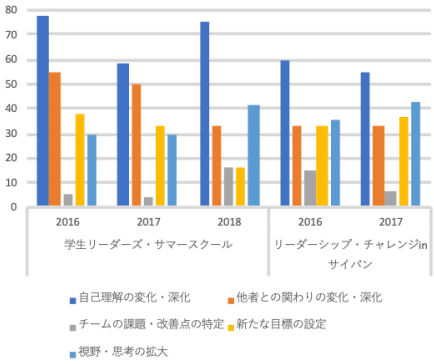

図 1：リフレクションから得たと学生が感じる学び

③ リフレクションにおける他者の関わりについて（本調査❷）：リフレクションを通じて得た学びに関して、参加学生や教職員に対するヒアリングや実際のリフレクション時の録音・録画データの整理等を行ったところ、他者の関わりから受ける影響を示唆する回答やコメントが多く確認された。UNGL プログラムでは教職員及び学生スタッフが参加学生の活動や取り組みを観察し、それに基づいてリフレクションのサポートにあたる。そのもとで参加学生らは自分の活動について言語化して振り返ると共に、他の学生からのコメントに耳を傾けたり、教職員からのフィードバックを受けたり等によって学びを深めていくが、このことに関するアンケート調査の結果からは、参加学生の大半（主な調査対象とした 2 プログラムのいずれも 8 割超の学生）がこれらリフレクションにおける他者との関わりのうち、なかでもスタッフの関与について肯定的に捉えていることが明らかとなった。

④ リフレクションから生起される学生の学びにおけるスタッフの役割（本調査❸）：参加学生がリフレクションへのスタッフの関与について肯定的に捉えている背景を探るべく、研究チームでは次の 5 つのカテゴリーを設定し、学生のコメントの分類を試みた（表 2 参照）。結果として、調査対象としたプログラムにおいてはいずれも全般的に「改善点の指摘、助言やアドバイスの内容・方法」に関する回答が多数を占め、次いで「観察や傾聴の姿勢・態度」「多様な視野・視点からのコメント」「ファシリテーション」「承認・褒め言葉」が続く結果となった（図 2 参照）。

カテゴリー	回答例
多様な視野・視点からのコメント	自分の気づかない点に気づかせてくれた、自分とは違う視点からのコメントにより見方が広がった等
改善点の指摘、助言やアドバイスの内容・方法	改善できる点を的確に指摘してくれた、観察に基づくフィードバックや説得力のある助言を受けた等
承認・褒め言葉	良い点を率直に褒めてもらった、長所を見出してくれた、取り組みの姿勢や努力を認めてくれた等
観察や傾聴の姿勢・態度	話をよく聴いてくれた、質問をして自分の考えを引き出してくれた、細かな点までよく見ていてくれた等
ファシリテーション	話し合いの論点を整理してくれた、モチベーションが向上した、答えではなくヒントをくれた等

表 2：スタッフの関与に関する学生コメントの分類

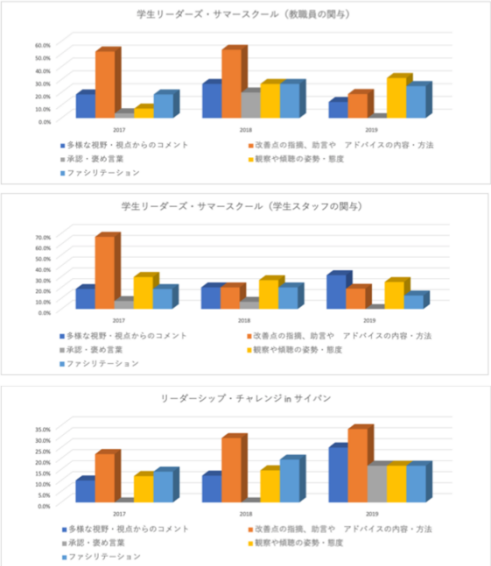

図 2：スタッフの関与を肯定的に捉える学生の回答理由

上述の通り、本研究では主に、(ⅰ)UNGL プログラムに参加した学生たちが、リフレクションを肯定的に捉えている理由を調査し、(ⅱ)自分個人だけではなく観察者・支援者であるスタッフと共にするリフレクションによって学びを深めることが出来たと認識していることを確認すると共に、(ⅲ)スタッフの如何なる関与が学生のリフレクションに肯定的な影響を及ぼしたかについて整理することが出来た。このことから、リーダーシップの養成を目的としたUNGLの研修プログラムにてリフレクションを通じて学生らが得る学び（自己理解の変化・深化、他者との関わりの変化・深化ほか）には、自分個人での振り返りに加え、他者との関わり、なかでも自分を外部から観察し、それに基づいたフィードバック（改善点の指摘、助言やアドバイスほか）を与えてくれるスタッフの存在が大きく影響していることが推察される結果となった。このことについては、研究チームのメンバーを含め、UNGL に関わる教職員スタッフが現場において抱く実感と大凡一致するところであり、今後プログラムをより充実したものとする上で貴重な示唆を得ることが出来た。

なお本研究から得られた知見は以下の通り学会報告により公表すると共に、UNGL のプログラム改善及び各連携校において実施する教育プログラム等の充実に役立てることができるよう、当該事業の研修時に企画・運営や学びのサポートにあたる教職員間で共有を図った。

- 大学生のリーダーシップ養成におけるリフレクションの効果について、大学教育学会 2018 年度課題研究集会（於長崎国際大学）、2018 年 12 月。
- 学生リーダーシップ・プログラムにおけるリフレクションの効果について；リーダーシップに関する学びを促進する要因を探る試み、大学教育学会 2019 年度課題研究集会（於エリザベト音楽大学）2019 年 11 月。

本研究を進める過程で得られた示唆や課題をもとに、2020 年度より 3 年間で実施する研究活動(JSPS 科研費 基盤研究(c)JP20K02518 学生の汎用的能力を養成する研修プログラムの構成要素に関する研究)では、(主にリーダーシップに関するスキルやマインドを中心に)大学生の汎用的能力の養成に影響する要素の調査・研究に引き続き取り組むことを計画している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 村田晋也、山内一祥、岸岡洋介、仲道雅輝、秦敬治
２．発表標題 大学生のリーダーシップ養成におけるリフレクションの効果について
３．学会等名 大学教育学会2018年度課題研究集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 村田晋也、山内一祥、岸岡洋介、仲道雅輝、秦敬治
２．発表標題 学生リーダーシップ・プログラムにおけるリフレクションの効果について；リーダーシップに関する学びを促進する要因を探る試み
３．学会等名 大学教育学会2019年度課題研究集会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岸岡　洋介 (Kishioka Yosuke) (00773235)	京都外国語大学・外国語学部・講師 (34302)	
研究分担者	山内　一祥 (Yamauchi Kazuyoshi) (90626516)	佐賀大学・学内共同利用施設等・講師 (17201)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	仲道　雅輝 (Nakamichi Masaki) (90625279)	愛媛大学・教育・学生支援機構・講師 (16301)	
研究分担者	秦　敬治 (Hata Keiji) (50444732)	岡山理科大学・教育推進機構・教授 (35302)	